

旧 JASMISS と旧 MIST の会員の皆さまへ

第 17 回中部 JASMIST 研究会を、名古屋駅近郊の Tsudoico NAGOYA Sta.EAST にて開催いたしました。本会には 64 名、ハンズオンセミナーには 31 名の皆様にご参加いただき、おかげさまで盛会のうちに終了することができました。ご参加いただいた先生方、メディカルスタッフの皆様、ならびに開催にご尽力いただいた関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

今回は「原点回帰 × 進化 — 技術・教育・連携の再構築を通じて、次の 10 年へ」をテーマに掲げました。施設や職種の垣根を越えて自由に議論し、若い先生方も気軽に学び、発表できるという本研究会の原点を大切にしながら、新たな技術や教育のあり方に触れ、MIST の今後を皆様とともに考える 1 日となりました。

一般演題では、若手からベテランの先生方まで幅広く計 15 演題のご発表をいただきました。多彩な演題を通じて日々の診療における工夫や課題が共有され、経験や施設の垣根を越えた活発な議論が交わされました。

モーニングセミナーでは、順天堂大学の野尻 英俊先生に、骨粗鬆症性椎体骨折から難易度の高い脊柱変形まで、幅広い手術症例を中心に講演いただきました。東北医科薬科大学の菅野 晴夫先生には、骨粗鬆症性椎体骨折に対する MIST 手技について、ご自身の工夫を交えながらご解説いただきました。両先生の豊富なご経験を通じて、治療戦略から実践的な手術手技まで、理解を深める貴重な機会となりました。

ランチョンセミナーでは、富山県立中央病院の笹川 武史先生に、多彩な救急外傷に MIST 手技を駆使して立ち向かう取り組みをご紹介いただきました。また、佐賀大学の森本 忠嗣先生には「リミッターをはずせ！」という信念のもと、「Road to Professor」としてご自身の歩みをお話しいただくとともに、DX を含めた教育について講演いただきました。臨床における実践から、挑戦を続ける姿勢や教育の新たな可能性まで、多くの示唆を得ることができました。

さらに特別企画では、兵庫医科大学の木島 和也先生、JCHO 大阪病院の金山 完哲先生にご登壇いただきました。木島先生には局所麻酔下で行う TF-FESS の魅力と導入について、金山先生には近年注目を集めている AFESS について講演いただきました。導入時に押さえるべきポイントから実践的な内容まで幅広くご紹介いただき、内視鏡治療の可能性と、その実践に必要な視点を学ぶ機会となりました。

また、ハンズオンセミナーでは、各社のご協力のもと、PPS、VBS、LIF、頸椎前方固定および後方固定の手技を参加者の皆様に体験していただきました。実際に器械に触れながら手技への理解を深めるとともに、多職種で知識や経験を共有する機会となりました。こうした体験を通じた学びは、日々のチーム医療における相互理解にもつながるものと感じております。充実した実習の場をご提供いただいた各社の皆様に、厚く御礼申し上げます。

大会長として、これまで本研究会を築き、支えてこられた先生方の思いを受け継ぎ、皆様と学び合う時間を持てましたことを大変うれしく思っております。今回の学びや交流が、各施設での診療や教育、さらなる連携につながることを願っております。

最後に、ご講演・ご発表いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、そして運営にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。今後とも中部 JASMIST 研究会へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第 17 回中部 JASmIST 研究会

大会長 大塚 聖視（JA 愛知厚生連海南病院 整形外科）

副大会長 笹川 武史（富山県立中央病院）